

信濃美術館の基本設計にかかる 「県民リレー・ワークショップ」(中信地域)の意見概要

日 時：平成 29 年 9 月 18 日 (月・祝) 午後 3 時から 5 時 15 分

場 所：安曇野市豊科公民館 大会議室

出席者：(株)プランツアソシエイツ 代表取締役 宮崎浩氏、副所長 吉満聡氏
松本透信濃美術館整備担当参与、日向信濃美術館整備室長、塩入施設課企画幹

参加者：35 名

概 要

[主な意見等] (アンケートへの回答含む。)

【県民リレー・ワークショップ】

- 設計サイドと運営サイドの双方から話を聞くことができてよかった。
- 宮崎さんの美術館に対する思いや考えを聞くことができてとてもよかった。自分の思い描く美術館像と非常に近いイメージだったのでとても楽しみである。

【全般】

- 美術に関心がない人や観光客、子どもたちが行きたくなる美術館にしてほしい。
- サテライト的な美術館が他の地域にできるとよい。
- 県民向けのきめ細かな広報が必要である。

【設計関連】

- 展望広場は素晴らしい。ぜひ実現してほしい。
- 展望広場の雪や防水対策を考えるとできるだけ屋根をかけたほうがよい。
- 東山魁夷館もそうだが、水庭は冬の対策を十分検討してほしい。
- パブリックスペース(無料ゾーン)が充実しそうで楽しみである。
- カフェはアートカフェにしてほしい。固定の分野ではなく、展覧会プログラムに応じた資料などを媒介に、美術に興味を持てるものにできるとよい。
- 県民ギャラリーを地下に配置するのは閉鎖的な感じがする。地下に配置する場合は、吹き抜けをつくって外光を取り入れるなどの工夫をすれば開放的になるのではないか。
- 現在、美術県展は松本市美術館で 1,600 m²程度の広さを借りて開催している。新しい信濃美術館の計画では県民ギャラリーと多目的ホールを合わせて 800 m²

で半分のスペースしかない。規模に応じた展示ができるスペースがほしい。

- 現在、美術県展は松本市美術館で開催しており、南からも北からも真ん中で立地的によい。北に位置する信濃美術館で、展示面積も現在より少ないとなると新しい美術館に期待していた我々としては切ない。2週間だけでも美術県展に使える柔軟な部屋を増やしてほしい。
- 信濃美術館を世界の美術品や日本の国宝・重要文化財を展示できる美術館にする志はよいが、県民の美術館として美術県展で十分に使えない美術館でよいのか。展示室の一部を県民ギャラリーとして美術県展に開放することはできないか。
- 共用展示室を県民ギャラリーとして使うことはできないか。
- 自然や周りの景観に配慮した美術館の設計は理解できるが、全会員の作品展示ができる美術県展や野外彫刻を展示するスペースの確保など、もっと詳細に美術県展関係者や他機関との連携が必要だと感じた。
- 美術館の外の環境を作家が実験できる空間として開放してほしい。作家が自由に発想できる場所を提供してほしい。
- 県民の中に美術館に関心がある人がどの程度いるのか。県民ギャラリーを広くしてほしいと言っても、それが県民共通の要望でなければ難しい。県民の関心を高める努力が必要である。
- 展覧会情報が県民に届くように情報提供をしっかりとやってほしい。現代はネット社会であるが、紙媒体も大切にしてほしい。美術館の中に展覧会等の情報コーナーを設けてほしい。
- 建物で人を呼べる美術館にしてほしい。
- インスタグラム映えするキラーコンテンツが無料ゾーンにあるとSNSでの情報発信につながる。
- 子どもがアートを感じられるモニュメントなどが城山公園内にあるとよい。
- 安曇野高橋節郎記念美術館のオレンジ色にライトアップされた夜のイメージがよい。暖かな光でぼんぼりのようで好きである。

【運営関連】

- 長野県ゆかりの作家の作品収集を進めてほしい。収集方針や基準を示してほしい。
- コレクションの充実を図ってほしい。
- 収蔵庫の一部公開（ガラス張り）ができるとう美術館の目玉になる。

- 保存・修復に関する研究者や担い手を育成してほしい。
- 行政のやることは横並びのことが多く個性がない。地域の個性を発信できる学芸員を育ててほしい。

(以上)